

知恩院本堂ちおんゐんほんだう〔昔は大御影堂みえいだうと称す、東西廿二間五尺南北十七間三尺五寸、瓦葺南面。勅額大谷寺ちよくがくと書して後奈良ごなら

帝の宸翰ていしんかんなり〕

本尊円光大師影倒ほんぞんゑんくわうだいにしゑいざう〔大師だいにしの御自作なり、居敷に修補の時の記あり、其中に根本御自作同四十八日御開帳供養の靈像た

るの文あり。又真影の左右に図する所二天童子てんどうじ、賀茂大明神かもだいまやうじん、毘沙門天びしゃもんてんなり〕

弥陀三尊みだぞん〔東壇中央に安ず、恵心僧都えしんそうづの上足寛印供奉じやうそくくわんいんぐふの作にして、円光大師御臨終の持尊ゑんくわうだいにしなり〕釈迦像しやくかざう〔堂後に図す、

絵所法橋徳応の筆ゑしほうけうとくおうなり〕善導大師像ぜんどうだいにし〔長三尺二寸、是則自作の像なり〕神変不思議仏舍利しんぺん〔堂内に安置す、神変しんぺんの名義みやつぎ

は義山上人舍利ぎさんの記に見へたり、舍利塔は黄金にして唐物なり〕